

第1回 J R穂積駅周辺のまちづくりに関する説明会 ご意見と市の考え方一覧

ご意見	市の考え方
<p>J R穂積駅圏域拠点化構想にて示されてきた計画案と、これから進める計画案は、リンクしていますか。</p>	<p>J R穂積駅周辺整備研究会からの提言にある駅周辺整備計画図は、J R穂積駅圏域拠点化構想における「まちづくり計画(案)」をもとに、まちづくり分野における有識者等の方々からのご意見を踏まえ作成されたもので、J R穂積駅圏域拠点化構想の考え方を引き継ぎながらも、穂積駅周辺のあるべき姿としてまとめられた内容となっています。</p>
<p>今後、計画案を策定する前に地元への説明を行い、判断する機会を設けていただけますか。</p>	<p>段階ごとに説明会を開催し、皆様のご理解をいただきながら事業を進めていきたいと考えています。</p>
<p>瑞穂市は観光資源がないため、人口を増やして税収を確保していかないといけないと思いますが、この整備の目的には、そのような視点からの考え方も入っていますか。</p>	<p>現時点での瑞穂市の人口は、県内でも数少ない増加傾向にありますが、その要因のひとつに、J Rの駅があることが強みであると考えています。しかしながら、駅周辺部の人口は減少しています。そのようなことから、地方創生において、市の強みを活かしつつ、課題となっている駅周辺の活性化を図っていくため「J R穂積駅圏域拠点化構想」を策定しました。当該事業は、その構想の実現に向けての事業であり、人口減少対策に関する視点も合わせて計画しています。</p>
<p>マンポトンネルを対面通行ができるくらいの幅員にしてもらえますか。</p>	<p>J R穂積駅周辺整備研究会では、マンポトンネル周辺の道路は、駅へ向かう車、国道へ向かう車等が混在しないよう、それぞれの道路の役割を分ける必要があるとの意見がありました。また、J R軌道敷のトンネル部を拡幅するには、列車が24時間運行していることをふまえた仮設線路の設置や安全対策等が必要となり、多額の費用を要するため、費用対効果を考えると他の整備を優先したほうが良いとの提言が示されています。それらの提言をふまえ、優先順位を考えながら、今後の計画策定を進めていきたいと考えています。</p>
<p>いつまでにどこを整備するのかについて、事業費を示しながら説明をしてほしい。</p>	<p>令和2年度から現地測量を開始し、同時に道路や駅前広場などの計画策定を進めながら、整備範囲の選定や事業費を試算していくこととしています。</p>
<p>土地区画整理事業を実施するのか、実施しないのかについての判断基準はありますか。</p>	<p>今回の駅周辺整備事業は、公共団体施行による土地区画整理事業を計画しており、その場合に適用される同意率のような法的な基準はありません。事業を実施するには、皆さんからご理解をいただきながら、都市計画事業として進めていくこととなります。参考として、組合施行による土地区画整理事業の場合は、組合を設立する際に所有者及び借地権者の人数および地積の3分の2以上の同意が必要となります。</p>
<p>土地区画整理事業により家が立ち退くことになった場合、補償費はいくらになりますか。</p>	<p>補償費は、移転が必要となる建物等の状況や個々の状況により異なりますので、それぞれの建物等の調査を行い算出をします。その建物等の調査は、事業開始以降に行っていきます。</p>
<p>土地区画整理事業による減歩率は、どのくらいになりますか。</p>	<p>減歩率は、事業計画を作成する段階で、全体の平均減歩率を算出します。個人ごとの減歩率は、事業開始以降に個々の土地に応じて算出します。</p>